地域の歴史に関する知識及び地域愛着が地域づくり活動への参画意識に与える影響分析

愛媛大学　学生会員　○野添愛美　愛媛大学　正会員　白柳洋俊

1. 背景と目的

人口減少や高齢化に伴う地域の衰退が懸念される中で，住民が地域組織の運営に主体的に取り組み，地域の存立を支えていく必要性が高まっている．その実現には，住民一人ひとりが居住する地域を自分にとってかけがえのないものだと感じる「地域愛着」を有することが基本的な前提となり，地域愛着の多寡が地域づくり活動への参画に影響を及ぼすことが多くの研究で報告されてきた[1)]．

それでは，地域愛着は如何にして醸成されるのであろうか．この点に関して，地域に関する知識を涵養することで地域愛着が醸成される可能性がある．Zajonc[2)]は，他者のことを知る程，他者の好感度が高まることを明らかにしており，これを「熟知性の原則」と呼称した．我々は他者に対してだけでなく地域に対しても愛着意識を有するとの既存研究[1)]を踏まえれば，地域に関する知識が涵養される程，地域愛着が高まる可能性がある．特に，居住歴や居住家屋の所有などのデモグラフィック要因と地域愛着の関係を検討した研究では，居住家屋が持ち家ではない住民は地域愛着が十分に醸成されないことを指摘しており[3)]，地域に関する知識の涵養はこうした住民の地域愛着を醸成し，地域づくり活動への参画意識を高めるとの効果が期待される．

そこで本研究では，第1に，地域愛着は地域づくり活動への参画意識に影響を与える，第2に，居住歴は地域愛着を醸成する，第3に，居住家屋が持ち家ではない住民は地域に関する知識が地域愛着に影響を及ぼすとの仮説を措定し，アンケート調査に基づき同仮説を検証する．

2. 方法

本研究では，愛媛県宇和島市旧津島町岩松地域を調査対象地域とし，調査対象地域に居住する435世帯を対象にアンケート調査を実施した．アンケートの内容は，「地域に関する知識」，「地域愛着」，「地域づくり活動への参画意識」，「居住歴」，「居住家屋の所有」であり，**表-1**に示す質問項目を設定した．地域に関する知識を問う設問では調査対象地域の歴史に関する文章の正誤判断の回答を要請し，地域愛着及び地域づくり活動への参画意識を問う設問では7件法にて回答を要請した．アンケート票の有効回答部数は135部であり，その内，居住家屋が持ち家である住民は110名，居住家屋が持ち家ではない住民は25名であった．

表-1　地域に関する知識，地域愛着，地域づくり活動への参画意識及び居住歴の質問項目と集計値

	質問項目	正解率	
地域に関する知識	岩松では戦後に、養蚕のための倉庫が盛んに建設された。	0.58	
	岩松は、古くは土居ノ奥地区に家屋が建てられ、年月を経るにつれ岩松川に向けて順に町並みが形成された。	0.71	
	岩松川は、かつて、津島支所の裏手の山裾を流れていた。	0.56	
	本通りは江戸時代につくられた伝統的な通りである。	0.69	
	岩松の伝統的な家屋に施されたベンガラ塗は、害虫や潮風から建物を保護することを目的に塗られたものである。	0.86	
	岩松の昔ながらの家屋に付けられた持ち送り板は豪商が財力を誇示するために取り付けたものである。	0.35	
		平均値	標準偏差
地域愛着（α＝0.92）	あなたにとって「岩松」は大切だと思いますか？	5.26	1.46
	あなたは「岩松」に愛着を感じていますか？	5.13	1.54
	あなたは「岩松」に自分の居場所がある気がしますか？	4.80	1.65
参画意識（α＝0.86）	「岩松」の問題について近隣の住民と話し合いたいと思いますか?	3.88	1.68
	「岩松」をより良くするために意見を言いたいと思いますか?	3.79	1.63
	「岩松」での話し合いやイベントに積極的に参加したいと思いますか?	3.87	1.70
居住歴	あなたは現在お住いの「まち」に、これまで通算何年住んでいますか?	41.68	22.37

3.結果と考察

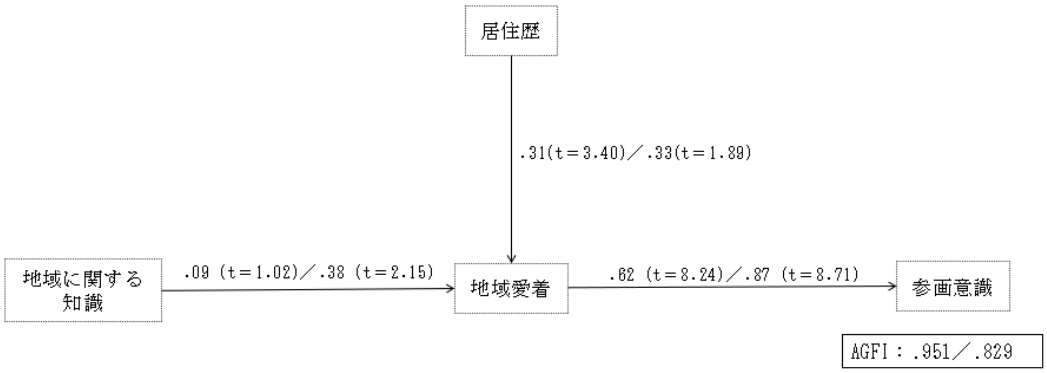

図-1　地域づくり活動への参画意識に関する意識構造
居住家屋が持ち家である住民（n=125）／居住家屋が持ち家でない住民（n=25）のデータを示す.

地域愛着及び地域づくり活動への参画意識を構成する各質問項目の内的整合性を検討するため，クロンバックのα係数を算出した結果を**表-1** に示す．十分な信頼性が認められたことにより，本研究では地域愛着及び地域づくり活動への参画意識は，同要因を構成する質問項目の平均値を算出し，定量化した．地域に関する知識は，6 項目の設問の正答率にて定量化し，これらのデータを居住家屋が持ち家もしくは持ち家ではない住民に区分し，各住民群にて共分散構造分析を実施した．分析結果を**図-1** に示す．第 1 に，地域愛着と参画意識の関係については，居住家屋の所有に関わらず，推定値が有意に正であるとの結果が得られた．これは地域愛着が高まる程，地域づくり活動への参画意識が高まることを意味しており，仮説を支持するものである．第 2 に，居住歴と地域愛着の関係についても居住家屋の所有に関わらず，推定値が有意に正であることから，居住歴が長い程，地域愛着が高まるとの結果が得られ，これは仮説を支持するものである．第 3 に，知識と地域愛着の関係は，持ち家でない住民は推定値が有意に正であるが，持ち家の住民は有意な影響を与えるとの結果を得るには至らなかった．居住歴と地域に関する知識の推定値を比較すると，持ち家である住民は居住歴の方が大きく，持ち家でない人は地域に関する知識の方が大きくなった．このことは，居住家屋が持ち家でない住民は，地域に関する知識が増える程，地域愛着が醸成されることを意味しており，仮説を支持する結果である．

4.結論

本研究では，地域づくり活動への参画意識に関する意識構造を分析した結果，居住家屋が持ち家である住民は居住歴が長い程，地域愛着が高まり，地域活動への参画意識が高まることが示された．また，居住家屋が持ち家でない住民は，居住歴が長い程，地域に関する知識が増える程，地域愛着が高まり，地域活動への参画意識が高まることが示された．また居住歴よりも地域に関する知識が地域愛着を高める傾向が示唆された．以上を踏まえると，新たに地域に居住する人に対しては，地域に関する知識を涵養することで，地域愛着を高め，その結果，地域づくり活動への参画意識が高まることが期待される．

5.参考文献

1）鈴木春菜，藤井聡：地域愛着が地域への協力行動に及ぼす影響に関する研究，土木計画学研究・論文集 Vol.25，No.2，2008.

2）Zajonc，Robert B.：Attitudinal effects of mere exposure，*Journal of Personality and Social Psychology*，Vol.9

3)佐野茂:地域への愛着と子どもへの関わりに関する一考察 ―JGSS-2003データより―,日本版General Social Surveys 研究論文集，Vol.4，JGSS で見た日本人の意識と行動 JGSS Research Series No.1，pp.33-46，2005.